

(あらすじ)
エピローグ。
この旅館での事件のその後。

女将の桐華と、腹心の桔梗の会話が行われる。
話によると、勇者は、その後、国へと戻り、
なんとか、妻のユナを説得できた様子だったというが…？

(プレイ)
Hシーンはありません。

=====

桔梗：
あー、とっても、いい天気♪♪
お洗濯日和ですね。桐華（とうか）さまっ。

ふふ…、そういえば、あのお方がいらしたのも、
こういう…、晴れ晴れとした天気の日でしたね。
中での出来事は、とっても、ドロドロしたものでしたけど♪♪
ふふふっ♪

勇者様、あれから、なんとか奥様と合流されて、
無事に、よりを取り戻せたとのことですけど…。

ふふっ。
実は…、それがどこまで続くか、みんなで賭けているんです。
やはり、あの勇者様ということもあって、
私は恐らく、あと、2月（ふたつき）ほどは
頑張るのではないかとでは無いかと踏んでいるのですが…。

桐華：
ふふっ。
それはちょっと…、彼を買いかぶりすぎたかも知れませんね？

私の極上の身体を知ってしまった男たちは…、んっ…♪
例外なく、夜の生活に支障をきたしてしまっ
満たされない思いが、
私と交わりたいという欲望が、どんどんと膨らんで。

皆、1月（ひとつき）とたたないうちに、
幸せな生活を投げ出して、ここへと向かってきたのですから…。
ふふふっ。

桐華：
私は…。そろそろだと思いますよ。
特に一昨日は、
珍しいところからの船が来たって話ですし。

もし、港からここを目指して、休まず歩き続けてきたのなら…、
そろそろ、たどり着くはずです…。

かつて勇者と呼ばれたほどの、品行方正な男が。

偉大な旅を共にした、大切な人を捨てて。

そこの山道を登って。

石垣の脇の小路を抜けて。

ほら…、すぐ…、そこに……♪

ふふふっ…♪

(8話 おわり)

(秘湯！逆寝取られの湯 おわり)